

飯山市旧4小学校利活用ビジョン提言書について

令和8年(2026年)7月22日

総務部 総務課

1 検討の対象と組織について

対 象	閉校となっている旧泉台小、旧常盤小、旧戸狩小、旧東小の4小学校
組 織	飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議として提言書を市へ提出 令和8年(2026年)2月24日に組織され、協議を開始。(7月2日まで) (公募委員、地区からの選出委員を含め、市民会議の委員数21名)

2 利活用検討の経過

旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議は、第1回目の令和8年2月24日から、第5回目の令和8年7月2日まで計5回の協議を行いました。市民会議の委員の皆様は、旧4小学校の利活用について、飯山市の現状、強み、弱みを確認し、市ならではの、また他自治体の事例等も確認しながら話し合いや協議を重ねていただきました。

市民会議の第5回(令和8年7月2日)において、市民会議より提言書を提出いただきました。

3 提言書における旧4小学校を利活用する方策

市民会議では、旧4小学校を利活用する方策として、2つの方向性を提言

(1)飯山市の強みを生かす空き校舎利活用方策

市内の地域資源を満喫できる場所や、子ども達が自然の中で逞しく成長できる場など『子どもや子育て』がキーワードとなる機能や施設としての利活用を提案。

他の自治体では体験できない自然に抱かれた子育て環境や教育環境により、全国から飯山で子育てしたいと思う親子が集まってくるものと考え、「自然の中で強く生き抜く力を育めるまち」に向けた中心的な機能(役割)を空き校舎に求めています。

(2)飯山市の課題を解決するための空き校舎利活用方策

市の弱みは、「知名度の低さとPR力の弱さ」、「駅前・中心市街地の機能(宿泊・商業・飲食・土産)不足」、「人口減少や少子高齢化によるコミュニティでの役務的金銭的負担の増」や「暮らしのインフラ(交通・医療・介護)及び単身者向け移住支援の弱さ」、観光においては「グリーンシーズンの弱さや全市的に宿泊施設が少ない」ことなどが考えられます。これらの全ての弱みを旧4小学校の利活用により底上げすることはできませんが、市外から人を呼び込み、市の課題解決に繋がる機能や施設を提案。これにより市民が安心暮らせる地域づくりを目指しています。

令和8年(2026 年)7月2日

飯山市長 江沢岸生 様

飯山市旧4小学校利活用ビジョン提言書

飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

1 はじめに

飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議（以下「市民会議」という。）は、令和8年(2026年)2月24日に組織され協議を開始しました。

協議の中で市民会議では、飯山市の空き校舎となっている旧4小学校の利活用について、市の現状、強み、弱みを確認し、市ならではの、また他自治体の事例等も確認しながら話し合いや協議を重ねてきました。

市民会議が考える空き校舎の利活用ビジョンの提言内容は、人口減少や出生率の低下に歯止めを掛け、飯山市民が将来に亘り安心して住み続けていけるために必要と思われる機能や施設についてまとめました。飯山市の強みを更に磨いて他自治体との差別化を図り、弱い点は他自治体と同水準になるよう引き上げを目指し、市民もこの地を訪れた人も、空き校舎が「市外から人を呼び込む中核施設」となることを願い、提言書を提出いたします。

2 空き校舎利活用の基本的な考え方

飯山市は子育て世代が減少し、生まれてくる子どもの数も100人を下回っています。

また地域で住み続ける負担が年々増えていると感じ、住みにくい田舎になりつつあります。このままでは少子高齢化が進み、人口減少の一途をたどることになると考えます。

我々市民会議は協議、検討の結果、旧4小学校の空き校舎利活用においては、市民の勤め先となる雇用のみの場としての事業所や、地域と関係の無い事業所を誘致するのではなく、「地域資源を活用して市外から人を呼び込む中核施設」を目指す方向を導きました。

例えば市民の中には新幹線で通勤する方も増えています。また、近年はリモートにより勤務する方も増えています。北陸新幹線の活用や柔軟な働き方が一般的になっていくにつれ、旧4小学校を雇用のみの働く場としての機能付けをしていくよりも、地域に子どもの声が溢れ、子育て世代に飯山市を選んでいただけるような機能や施設を整えることが有効な活用方法ではないかと方向づけています。

また、市民会議では「飯山市の強みや弱みを議論し、強みを最大限活かせる活用方策」を推し進めるために「差別化とキャッチアップ^{注1}」という考え方のもと、検討をしてきました。

飯山市の強みを活かし他市町村にはないサービスを行う拠点と、飯山市の弱みを補い他市町村に追いつくためのサービスを行う拠点に分けて具体的な利活用策を検討し、次のとおり利活用していくこととしました。

注1 キャッチアップとは、「追いつくこと」や「遅れを取り戻すこと」を意味する言葉です。ビジネスシーンでは、最新の情報を把握したり、不足している知識を補って遅れを挽回したりする行動を指して使われます。

3 旧4小学校を利活用する方策

市民会議では、旧4小学校を利活用する方策として、次の大きく2つの方向性を提言いたします。

(1)飯山市の強みを活かす空き校舎利活用方策

「沢山の雪が降り、豪雪地帯で厳しくも豊かな自然環境」、「日本一の長さを誇る千曲川(信濃川)が市内を流れ、斑尾山や鍋倉山、小菅山等に囲まれた魅力的なネイチャーフィールド」、「厳しい冬を耐え抜いてきたからこそその雪国の人情味と優しさ」そして「このよう豊かな自然に囲まれながらも首都圏まで2時間以内で繋がる北陸新幹線飯山駅がある」ことが飯山市の最大の強みと考えます。

飯山の豊かな自然や温かな市民に見守られながら、飯山市の地域資源を満喫できる場所や、子ども達が自然の中で逞しく成長できる場など『子どもや子育て』がキーワードとなる機能や施設としての利活用を提案します。

他の自治体では体験できない自然に抱かれた子育て環境や教育環境により、全国から飯山で子育てしたいと思う親子が集まってくるものと考えています。以上のことから、「自然の中で強く生き抜く力を育めるまち」に向けた中心的な機能(役割)を空き校舎に求めます。

＜施策例＞

①子どもを外で安全に遊ばせることができ、雨の日も体を動かして遊べる施設(機能)

(例：近隣自治体に整備された子育て支援施設、「ハブリック」、「ながのび」等)

②飯山市の自然の中で子どもを育てるための教育・子育て施設(機能)

・地域独自の自然や環境を最大限活かした「木育や森林教育」、「雪の科学」、「農育」のほか、画一的な教育の枠組みにとらわれない、新たな視座に基づく教育拠点

(例：フリースクール、通信制の教育機関(スクーリング施設を含む。)、オルタナティブスクール^{注1)})

・独自の教育理念に基づき運営され、とことんまで人間力(非認知能力)を養える特色ある保育園、幼稚園・小学校等の教育施設

(例：近隣自治体に設置された「里山ようちえん」等)

③外国人や都会の子ども向けの特化型「自然留学」プログラム

・スポーツ留学、小学生向け夏冬体験学習、信州自然留学(山村留学)、外国人向け日本語学校

^{注1} オルタナティブスクールは、画一的な日本の公教育とは異なる独自の教育理念やカリキュラム(探究学習や自然体験など)に基づき、子どもの主体性や個性を尊重する新しい形の学校です。多くは少人数制で、子ども自身の興味・関心を軸に学ぶことができます。

(2)飯山市の課題を解決するための空き校舎利活用方策

本市民会議では、飯山市の弱みは、「知名度の低さとPR力の弱さ」、「駅前・中心市街地の機能(宿泊・商業・飲食・土産)不足」、「人口減少や少子高齢化によるコミュニティでの役務的金銭的負担の増」や「暮らしのインフラ(交通・医療・介護)及び単身者向け移住支援の弱さ」、観光においては「グリーンシーズンの弱さや全市的に宿泊施設が少ない」ことなどが掲げられております。

これらの全ての弱みを旧4小学校の利活用により底上げすることはできませんが、市外から人を呼び込み、市の課題解決に繋がる機能や施設を提案します。これにより市民が安心して暮らせる地域づくりを目指します。

《施策例》

- ①ホワイトシーズンは勿論のこと、グリーンシーズンにおいても星空や農業体験、サイクリング等、都会では味わえない自然との触れ合いの体験やコーディネート・相談できる機能や施設
(例：ファミリーで宿泊できる宿泊施設、ペットと宿泊できる宿泊施設、クラインガルテン^{注1}（滞在型市民農園）)
- ②若者や単身者が移住のお試しや仕事等で中長期的に滞在できる機能や施設。都会のビジネスマンや芸術家等の居住と事務所(アトリエ)を兼ねる機能や施設
(例：単身者向け移住お試し宿舎、農業就労者等向け中長期型滞在施設、起業のベース基地、ワーケーション^{注2}施設、アーティスト・イン・レジデンス^{注3}（芸術家が一定期間この地に滞在し、創作活動を行う場）)
- ③高齢者福祉や健康増進等、子どもから高齢者まで交流し利用できる機能(施設)
(例：サービス付き高齢者向け住宅、介護サービス事業、スポーツジム等の健康増進施設)
- ④独自の農産物（伝統野菜や米、キノコ等など）や伝統的な食文化を体験し楽しめる機能(施設)
(例：農家レストラン、加工所)

注1 クラインガルテンとは、ドイツ発祥の「小さな庭（市民農園）」を意味する言葉です。農作業ができる区画（畑）に加え、宿泊可能な施設が付いた「滞在型市民農園」を指します。

注2 ワーケーションとは、「ワーク（仕事）」と「バケーション（休暇）」を組み合わせた造語です。普段の職場や自宅を離れ、リゾート地や観光地、帰省先などでテレワークを活用して働きながら、余暇や自分の時間を楽しむ新しい過ごし方のことを指します。

注3 アーティスト・イン・レジデンスとは、芸術家が一定期間ある地域や施設に滞在し、現地の文化や環境に触れながら制作・リサーチ活動を行うプログラムのことです。宿泊場所やアトリエが提供されることが多く、「滞在型制作」とも呼ばれます。

4 旧4小学校利活用の担い手について

我々市民会議では、旧4小学校の利活用については、だれが事業を実施していくのか、そして実施する事業が、10年、20年と継続していくことが大切だと考えます。

旧4小学校の利活用においては、変化する経済、環境や人口動態にしなやかに対応した、利活用事業の継続を望んでおり、市としての利活用方針もありますが、民間活力^{注1}を積極的に活用していただきたいと考えます。

原則的に、市には旧4小学校の不動産の所有者として、利活用事業を進める上での相談、協議の窓口を設置していただき、地元や企業とのマッチングや必要な許認可申請等の後方支援を担っていただきたい。

なお、旧4小学校の利活用事業として、どうしても市が設置(建設)や事業を実施する場合であっても、民間活力が活かせるような公民連携の手法をできる限り優先的に用いることとしていただくことを願います。

^{注1} 民間活力… 営利を追求する営利法人だけでなく、非営利法人(一般社団法人、社会福祉法人、NPO法人等)を含みます。ただし、宗教法人等は含みません。